

グループの自動選択起動

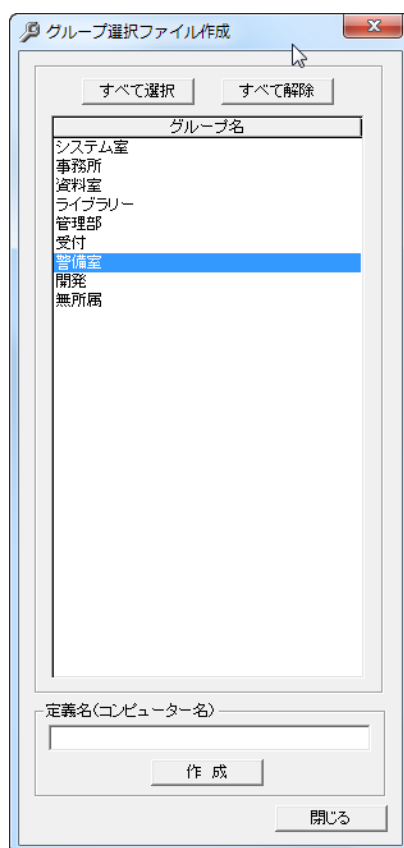
マネージャーを起動する際、任意のグループに所属するクライアントだけを選択（抽出）してリストに表示させる事が出来ます。多台数のクライアントやグループが登録されている場合に、誤操作防止の為にもグループを選択しての起動は有効です。

環境設定の画面で「グループ選択画面の表示」を有効にすることでもグループ選択起動が可能です、起動の都度、ユーザー操作によってグループを選択する必要があります。

以下に述べる方法で、対話型のグループ選択操作を行わないでマネージャーを起動する事が可能です。

グループ選択ファイル（定義）の作成

自動グループ選択を行うには、予めグループ情報を記録した「グループ選択ファイル」を作成しておきます。作成プログラムの「MakeGrpSelFile.exe」はマネージャープログラムがインストールされているフォルダ内にあり、手動で起動します。（C:\Program Files\Cyberace\Systemkeeper\Manager）



対象とするリスト内のグループを選択状態にします。

定義名を入力し「作成」ボタンを押すと、定義名をベースとしたファイルが作成されます。

定義名に拡張子をつけることは出来ません。（プログラムが".dat"を自動付加）

定義名には任意の名称を設定可能ですが、マネージャーを実行するコンピューター名を設定した場合は、後に説明する特別な動作を行うことが可能です。（コンピューター名による自動選択起動）

作成されたファイルは以下のフォルダ位置に保存され、テキストエディタによる直接編集も可能です。

（C:\Program Files\Cyberace\Systemkeeper\Manager\Data\GrpSel）

マネージャーの起動

通常、マネージャーはスタートメニューに登録されたショートカット「マネージャー」を選択して起動します。このとき実行されるプログラム「RunCtrl.exe」がマネージャーのランチャープログラムになります。

グループの自動選択起動を行うには、「RunCtrl.exe」にオプションを付加して実行します。

オプションの指定は 2 種類あります。

1. 定義名を指定する

RunCtrl.exe /GRPFILE:定義名 (定義名の前に半角のコロン":")

(/GRPFILE:の後に定義名を続けて入力します。(例： RunCtrl.exe /GRPFILE:本部棟)

この場合、指定されたファイルに登録されたグループのクライアントのみが選択されて起動します。

2. 定義名を指定しない

RunCtrl.exe /GRPSEL

定義名を指定しないでオプションの /GRPSEL のみ記述して実行します。

このときは、実行したマネージャーのコンピューター名を定義名としてファイルを読み込み、起動します。

グループ選択ファイルを作成する際、定義名にコンピューター名を設定して作成しておく必要があります。自己のコンピューター名のファイルが無い場合、通常起動（全選択）となります。

※上記の実行内容をショートカットにし、スタートメニュー等に登録してご利用ください。

(例："C:¥Program Files¥Cyberace¥Systemkeeper¥Manager¥RunCtrl.exe" /GRPFILE:本部棟)